

日本蜘蛛学会第 48 回大会

会期：2016 年 8 月 20 日（土）・21 日（日）

会場：東京大学柏キャンパス新領域環境棟 FS ホール

日 程

8 月 20 日（土）		8 月 21 日（日）	
受付	8:50～	受付	8:45～
開会	9:20	一般講演（口頭）	9:00～12:30
一般講演（口頭）	9:30～11:45	閉会	12:30
写真撮影	11:45～11:55		
昼食	11:55～12:45		
一般講演（口頭）	12:45～13:30		
ポスター発表	13:35～14:15		
シンポジウム	14:20～17:00		
総会	17:05～17:50		
懇親会	18:10～20:10		

役員会

8 月 19 日（金）新領域環境棟 5 階講義室

編集委員会 13:30 ～ 14:30

評議員会 14:30 ～ 16:00

自然保護委員会 16:30 ～ 17:30

大会案内

受付

- ・受付は会場入り口に設置します。
- ・当日参加も可能です（大会参加費 一般 3000 円，学生 2000 円）。
- ・懇親会参加者の名札にはマークをつけますので，受付時にご確認ください。

一般講演（口頭発表）FS ホール

- ・講演時間は 15 分です。発表 12 分，質疑応答 3 分を目安にしてください。10 分で 1 鈴，12 分で 2 鈴，15 分で 3 鈴を鳴らします。3 鈴が鳴りましたら直ちに講演を終えてください。
- ・講演用のファイルは PowerPoint 形式でご用意ください。ファイルは USB メモリーなどをご持参いただき，午前に発表の方は開始時刻まで，午後に発表の方は昼食終了までに，会場の発表用パソコンにコピーし，適正に映ることを確認してください。
- ・講演時の機材操作は各自でお願いいたします。
- ・手持ち機材を利用することも可能です。VGA 接続用アダプターを用意し，開始時刻までに接続テストをお願いします。念のため，USB メモリー等で PowerPoint ファイルもお持ちください。

ポスター発表（場所：FS ホール内後方）

- ・縦 160cm, 横 75cm のポスターボードを用意します。受付後直ちにポスターを掲示してください。マグネット、テープ等は事務局で用意します。
- ・初日の 13:35~14:15 がポスターセッションの時間です。奇数番号の方は 13:35~13:55 まで、偶数番号の方は 13:55~14:15 までポスター前で説明をお願いします。
- ・ポスターは大会終了時まで（早く帰られる方はお帰りの際まで）ご掲示ください。

シンポジウム (FS ホール)

- ・講演時間は 25 分です (Hayashi さんは 45 分)。20 分で 1 鈴, 23 分で 2 鈴, 25 分で 3 鈴を鳴らします。また、趣旨説明に 5 分, コメントおよび総合討論として 10 分を予定しています。

懇親会

- ・8月20日(土) 18:10 からキャンパス内プラザ憩にて懇親会を行います。

昼食

- ・8月20日(土)の昼食予約者は「お魚倶楽部はま」でお召し上がりください。

会場までの交通

- ・つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅 西口 東武バス1番のりば 西柏 03 流山おおたかの森駅 東口行き 西柏 04 江戸川台駅東口行き 東大西下車
- ・JR 常磐線 東武アーバンパークライン(野田線) 柏駅 西口 東武バス2番のりば 西柏 01 柏の葉公園経由 国立がん研究センター行き 東大西下車 柏 44 税関研修所経由 国立がん研究センター行き 国立がん研究センター下車 (この路線は不便です)
- ・東武アーバンパークライン(野田線) 江戸川台駅 東口 西柏 04 柏の葉キャンパス駅西口 (国立がん研究センター経由) 西柏 10 柏の葉キャンパス駅西口 (みどり台中央経由) 国立がん研究センター経由は、東大西下車、「みどり台中央経由」は、東大西門前か東大西下車

宿泊

- ・宿泊については参加者ご自身でご手配をお願いいたします。

柏駅周辺の宿

相鉄フレッサイン千葉柏 (¥7038~) 04-7165-0203

ザ・クレストホテル柏 (¥11880~) 04-7146-1111

柏プラザホテル 本館 (¥6100~) 04-7147-1111

柏プラザホテルアネックス (¥6100~) 04-7147-1115

東横イン柏駅西口 (¥6270~) 047-180-1045

柏の葉キャンパス駅周辺の宿

三井ガーデンホテル柏の葉 (¥8800~)

※キャンパス内は禁煙です。

8月20日（土）

8:50 受付開始

9:20 開会

一般講演

座長 加藤輝代子

- 9:30 O-1 ○馬場友希・田中幸一（農研機構・農業環境変動研究センター）
水田における環境保全型農業がクモ類を含む節足動物群集に与える影響とそのメカニズム
- 9:45 O-2 ○田中幸一・馬場友希（農研機構・農業環境変動研究センター）
水田におけるアシナガグモ属種組成の地理的傾向
- 10:00 O-3 ○筒井優¹・馬場友希²・田中幸一²・宮下 直¹（¹東大・農, ²農研機構・農業環境変動研究センター）
環境保全型水田におけるアシナガグモ類の時空間動態
- 10:15 O-4 相知紀史（長崎県立猶興館高校）
平戸市の水田内におけるクモ相の変化

座長 田中幸一

- 10:30 O-5 田中一裕（宮城学院女子大・一般教育）
キクヅキコモリグモの歩行活動リズム
- 10:45 O-6 Joo-Pil Kim¹, ○Dae-Hee Kim¹（¹ Arachnological Institute of Korea）
Leg types and characteristics of spider walking on water in Korea
- 11:00 O-7 中田兼介（京都女子大）
ギンナガゴミグモの配偶行動と垂体切除
- 11:15 O-8 ○石黒 亘・DeMar Taylor（筑波大院・生命環境）
クサグモ *Agelena silvatica* におけるエクダステロイドによる脱皮ホルモン初期遺伝子 AsE75A の発現の誘導
- 11:30 O-9 Kim, Joo-pil¹, ○Hyung-min Lee²（¹ The Arachnological Institute of Korea, ² Hansol high school）
Arthropoda overwintering at straw band from Korea.

11:45～11:55 写真撮影

11:55～12:45 昼食

座長 吉田 真

- 12:45 O-10 ○藤原正幸¹・河野暢明¹・平山明由¹・Malay Ali³・中村浩之²・大利麟太郎²・沼田圭司³・富田勝¹・荒川和晴¹（¹慶大・先端生命研, ²Spiber(株), ³理化学研究所・CSRS）
ジョロウグモ牽引糸のタンパク質解析
- 13:00 O-11 ○片山詔久¹・前田拓見¹・宮澤光博²（¹名市大院・システム自然, ²農業生物資源研）
赤外ラマン法を利用したジョロウグモ牽引糸に関する蛋白質の分子構造や配向と吐糸速度との相関

13:15 O-12 Malay Ali・沼田圭司（理研酵素）

Morphological aspects of supercontraction in spider dragline silk

ポスター発表タイトル一覧（奇数番号 13:35～13:55，偶数番号 13:55～14:15）

P-1 川上大地・鶴崎展巨（鳥取大・地域・生物）

三重県中部におけるアカサビザトウムシの染色体数の求心的かつ連続的な急増

P-2 池田博明¹・須黒達巳²（¹ [神奈川県]，² 慶應義塾幼稚舎）

沖縄の裂歯ハエトリについて

P-3 千木良芳範（宜野湾市立博物館）

座津武川で観察したオオハシリグモの食性

P-4 村田浩平¹・玉川佳樹²（¹ 東海大・農，² 住商アグリビジネス）

阿蘇地域の草原におけるマダニ科の生息状況と個体数の推移

P-5 下謝名松榮¹・松田祐紀¹・奥村賢一²・小野展嗣³（¹ [沖縄県（元琉大・教育）]，² 県立長崎鶴洋高，³ 国立科博／九大・地球社会）

オキナワヤチグモの生活史 — 冬季に繁殖するクモの特性を探る

P-6 小澤祐介・安倍 弘（日大・生物資源）

神奈川県藤沢市の管理草地と自然草地におけるクモ相の比較

P-7 Joo-Pil Kim¹，Seung Hwan Jee²（¹The Arachnological Institute of Korea，²Jungkyung High School）

The spider fauna of Han River (Seoul City) from Korea

P-8 坂寄 廣（[つくば市]）

ミツマタカギカニムシ *Bisetocreagris japonica* (Ellingsen, 1907) の後胚子発生～その外部形態と毛序式の変化に注目して～

P-9 島野智之（法政大学自然科学センター）

ダニ類からみた近年の Arachnida の体系

P-10 河野暢明¹・藤原正幸¹・中村浩之²・大川麟太郎²・富田勝¹・荒川和晴¹（¹ 慶大・先端生命研，² Spiber（株））

大規模シーケンスによる蜘蛛糸遺伝子の比較解析

14:20～17:00

公開シンポジウム「クモ糸研究の最前線：進化・生態・機能」

内閣府革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）鈴木プログラムとの連携シンポジウム

主催・共催：日本蜘蛛学会，国立研究開発法人科学技術振興機構

座長：鈴木隆領 内閣府革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）プログラム・マネージャー

14:20 イントロダクション Introduction

馬場友希（農研機構 農業環境変動研究センター）

Yuki Baba (Institute for Agro-Environmental Sciences, NARO)

14:25 S-1 基調講演

Cheryl Hayashi (University of California, Riverside)

Evolution of spider silk: diversification of the spidroin gene family

- クモ糸の進化: スピドロイン遺伝子ファミリーの多様化
- 15:10 S-2 荒川和晴 (慶應義塾大学 先端生命科学研究所)
クモ糸高機能発現メカニズムの解明に向けた網羅的トランスクリプトームシーケンシング
Kazuharu Arakawa (Institute for Advanced Biosciences, Keio University)
De novo transcriptome assembly of 1000 spiders
- 15:35 S-3 沼田圭司 (理化学研究所 環境資源科学研究センター)
クモ糸の階層構造と機能の発現様式
Keiji Numata (RIKEN Center for Sustainable Resource Science)
Hierarchical structures and functions of spider silk
- 16:00 S-4 新海 明 (日能研関東)
流水上の網の付着盤
Akira Shinkai (NICHINOKEN KANTO Corporation)
Attachment disk of spider webs on stream surface
- 16:25 S-5 宮下 直 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
粘着糸の変革をもたらしたクモの生態と行動の特殊化: トリノフンダマン亜科に学ぶ
Tadashi Miyashita (Graduate School of Agriculture and Life Sciences, University of Tokyo)
The unique feature of spiral threads in *Cyrtarachninae* and its consequences on ecological and behavioral specialization
- 16:50 討論 Discussion
- 17:05~17:50 総 会
- 18:10~20:10 懇親会

8月21日 (日)

8:45 受付開始

一般講演

座長 原口 岳

- 9:00 O-13 浅間 茂 (千葉生態系研)
クモ実験・観察 3 題
- 9:15 O-14 ○佐々木健志¹・比嘉祐成² (¹琉大博物館・²沖縄市)
沖縄県におけるヤイトムシ類の生息環境と繁殖生態について
- 9:30 O-15 ○竹原 周¹・鶴崎展巨²・上島 励¹ (¹東大・理, ²鳥取大・地域)
分子系統解析に基づく日本産ナミザトウムシ種群の分類学的再検討
- 9:45 O-16 ○鶴崎展巨・小川弘展 (鳥取大・地域)
愛媛県とその周辺におけるイラカザトウムシの染色体数の地理的分化
- 10:00 O-17 ○谷川明男¹・新海 明²・宮下 直¹ (¹東大・農・生物多様性, ²日能研関東)

イソコモリグモの集団構造解析

座長 加村隆英

- 10:15 O-18 ○井原 庸¹・馬場友希² (¹広島県環境保健協会, ²農研機構・農業環境変動研究センター)
愛媛県に分布するヤミサラグモ属の2種: 交尾器の「錠と鍵」による機械的隔離がもたらした種分化
- 10:30 O-19 奥村賢一¹・野稻 充²・大庭伸也² (¹県立長崎鶴洋高, ²長崎大・教育)
後牙堤2歯のヤチグモ類の分類 ~どの範囲を同属とみなすか~
- 10:45 O-20 Phung Thi Hong Luong^{1,2}・Takeshi Yamasaki¹・Katsuyuki Eguchi¹ (¹ Tokyo Metropolitan University, ² Institute of Ecology and Biological Resources, Vietnam)
Taxonomic study of Vietnamese species of the genus *Phintella* (Araneae: Salticidae)
- 11:00 O-21 Joo-Pil Kim¹, ○Tea-Woo Kim² (¹The Arachnological Institute of Korea, ² Seongbok High School)
One undescribed species of the genus *Pholcus* Walckenaer, 1805 (Aranea : Pholcidae) from Korea
- 11:15 O-22 ○小野展嗣¹・下謝名松榮² (¹国立科博/九大・地球社会, ² [沖縄県 (元琉大・教育)])
南大東島の鍾乳洞から得られたコタナグモ属の未知種

座長 鶴崎展巨

- 11:30 O-23 梶元敏也 ([大津市])
クモヒメバチ *R. masumotoi* に寄生されたゴミグモは早く出現する
- 11:45 O-24 ○高須賀圭三¹・松本吏樹郎²・前藤薫¹ (神戸大院・農¹, 大阪自然史博²)
ニホンヒメグモのノックダウン式不規則網に特化したキマダラクモヒメバチ *Zatypota maculata* の産卵行動
- 12:00 O-25 ○原口 岳・長谷川元洋・滝 久智・松浦俊也・岡部貴美子 (森林総合研究所)
二次林のクモ類相に影響を及ぼす履歴・景観要因
- 12:15 O-26 ○山崎健史¹・橋本佳明²・遠藤知二³・兵藤不二夫⁴・市岡孝朗⁵ (¹首都大, ²兵庫県立大/人と自然の博物館, ³神戸女学院大, ⁴岡山大, ⁵京都大)
アリグモ属におけるミミック-モデル関係の進化パターン
- 12:30 閉会の辞